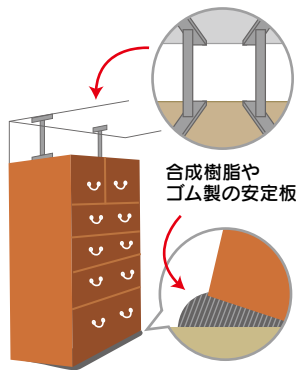
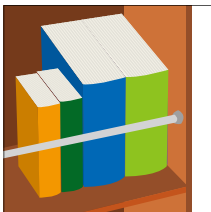


家具を固定させ、転倒を防止

天井がしっかりとしているコンクリート住宅の場合、天井と家具の間に突っ張り金具を入れ、上下に突っ張って固定する方法がおすすめです。できるだけ壁面の家具の両端に垂直に立てるとよいでしょう。また、家具の全面に合成樹脂やゴム製の安定板をはさむことで、**重心を後に移し前に倒れにくくする方法**も有効です。



家具の中身を飛び出させない



地震の時、困るのが家具の中身が散乱すること。簡単にネジで取り付けることができるラッチをストッパーにすると安心です。扉の内側につけるタイプのラッチもあるので、インテリアも損ねません。オープン棚の場合は、**突っ張り棒などを使って**棚板にガードをしておきましょう。ただ、万全ではないので、落ちて危険なものは、扉付きの家具に飾ることをおすすめします。

家具の配置場所にも気を配る

眠っている無防備な状態に家具が倒れると危険なので、できるだけ**寝室には背の低い家具**を置きましょう。特に、高さが奥行き3倍以上の家具は危険です。また、**家具が倒れるとドアが開かなくなる可能性が高い**ので、出入り口付近には家具を置かないよう心がけたいもの。家具を倒れにくくするには、**重いものは下段**に入れ安定感を持たせるとよいでしょう。



CheckPOINT 避難時のチェックポイント

ガスの元栓を閉める

ガス漏れは大変危険です。常日頃から、**外出時には必ず元栓を閉める習慣**をつけておくとうれしいでしょう。

窓やドアを開けて外に出る

地震の影響で家が火事になってしまう場合があります。窓が開いていると**燃え広がる**ので、窓やドアは閉めて外に出ましょう。

ブレーカーを切る

電気が復興した時に怖いのが**漏れたガスへの引火や爆発**。避難時は、メインブレーカーを切ってから外に出ましょう。

避難ルートを決める

自治体指定の避難場所を事前にチェック。建物の崩壊や橋の落下などを考えて、**最低2通りのルート**を決めておきましょう。

緊急時の連絡先を決める

家族がバラバラな状態で災害に遭う場合を想定して、**連絡先の確認を。遠方の親戚、知人など最低3件**決めておきましょう。



賃貸マンションでも出来る

地震に備えた部屋づくり

福岡西方沖地震から、早2年。記憶が薄れつつある今日この頃、地震対策は万全でしょうか? も万が一、大きな地震が起こった際、被害を最小限に食い止めてくれるのは、万全な備えです。家具の対処法を中心に、**賃貸マンションでも出来る地震対策**をご紹介します。

from228 もご参照下さい。